甲府市立千代田小学校

令和５年度 学校評価についての御報告

保護者の皆様へ

早春の候、保護者の皆様には御清祥にてお過ごしのことと拝察いたします。

平素より、千代田小学校の学校運営への御理解と御協力を賜り、心より感謝いたしております。

さて、１２月に御協力いただきました保護者アンケートや児童を対象にしたアンケートの結果をもとに、本校の学校運営の在り方について自己評価を行うとともに改善策を作成し、学校関係者評価委員会（学校運営協議会委員）において御助言をいただきました。その結果につきまして、保護者の皆様にも御報告させていただきたいと思います。

令和５年度の成果と課題をもとに、次年度も充実した教育活動に取り組んでまいりたいと思います。

令和６年２月１６日

甲府市立千代田小学校
校　長　　篠原　利明

1　令和５年度千代田小学校　学校評価計画

は令和５年度に追加した評価項目

学校教育目標「心豊かでたくましく、自ら学び、自ら考え、実践する子どもの育成」

	領域	重点目標	番号	評価項目	具体的方策	評価指標	教師アンケート項目	児童アンケート項目	保護者アンケート項目
よく考え進んで学習する子ども	学習指導の充実	学習意欲を高め、学ぶことの楽しさが実感できるような授業づくりに努める。	1	ユニバーサルデザインの視点をふまえたわかる授業	明確な目標を設定し、達成感のあるわかる授業・楽しい授業を行う。	ねらいを明確にし、目標達成のための手立てを仕組んだか。	甲府スタイルの実践を通し、わかる授業・楽しい授業を行っている。	授業は楽しくわかりやすい。	教師は、楽しくわかりやすい授業を行っている。
			2	言語活動の充実（主体的・対話的で深い学び）	各教科、領域などで言語活動を充実した取り組みを行う。	各教科の学習活動において、言語活動を取り入れた指導を行うように努めているか。	話し合ったり、考えを書いたりする活動を取り入れた指導を行っている。	話したり、書いたりする活動に進んで取り組んでいる。	学校の指導を通して、話したり書いたりする力がついてきている。
			3	ICT機器の効果的な活用	学びを広げるツールとして、文房具や教具と同様に、日常的に子ども達に活用させる。	端末の効果的な活用方法について研修を進め、子供たちに活用させることができたか。	ICTを活用し、子供の学びを広げる工夫をしている。	クロームブックを使った学習は、楽しくわかりやすい。	クロームブックを使った指導が、お子さんの主体的な学びにつながっている。
		一人一人の教育的ニーズを把握し、個に応じた教育活動の推進に努める。	4	個に応じた指導	学習内容が理解できない子どもに対し、授業中や授業外の時間に補充的な指導をする。	個に応じた丁寧な個別指導の時間を確保するよう心がけているか。	授業中や授業以外の時間に個別指導をしている。	勉強がわからないときには、先生がわかるまで丁寧に教えてくれる。	学校の個に応じた指導によって、理解が深まっている。
			5	読書活動の推進	図書の時間やCANの読み聞かせ等、読書の時間を活用して子供の関心を高める。	子どもが本に興味を持つような工夫をしているか。	子供たちが読書に親しめるような工夫をしている。	いろいろな本を自分から進んで読んでいる。	お子さんは、読書を楽しみ親しんでいる。
			6	計画的な家庭学習	授業内容の定着、予習的要素などを目的に、児童自ら内容を考え主体的に取り組ませる。	児童が自力でやり遂げられるような内容や分量の家庭学習を心がけているか。	家庭学習を児童自身でやり遂げることができるように、内容や方法を考えている。	家庭学習はきちんとやっている。	お子さんは、家庭学習の習慣を身につけている。
思いやりのある子ども	心の教育の充実	学習や学校生活の基盤となる楽しい学級づくり（集団づくり）に努める。	7	道徳教育の充実	見通しを持って、計画的に道徳の授業を実践する。	資料や指導に工夫を加え、計画的な道徳の授業を毎週行っているか。	思いやりの心や命を大切にする心を育てる指導をしている。	友達のことを、大切にしている。	お子さんに、思いやりの心や命を大切にする心が育っている。
			8	集団づくり 個性の尊重	児童が所属感を持てるような集団づくりを心がけ、一人ひとりの可能性を生かすよう努める。	教師と児童との信頼関係や児童相互のよりよい人間関係を育てる土台となる学級づくりに取り組んだか。	児童の自己肯定感を高める取組の工夫に努めている。	先生は、頑張るとほめてくれたり、はげましてくれる。	8−1 学校は、子供達の教育的ニーズに適切に応えようとしている。 8−2 学校は、基本的生活習慣や集団生活における規範意識を育てている。 8−3 お子さんは、仲間を大切にして良好な関係を築いている。
			9	児童理解	いじめ・不登校の未然防止のため、児童理解を深め、一人一人の心を受け止める。	児童理解を深め、一人一人の心を受け止めるために、児童と向き合う時間を確保したか。	子どもの悩みや相談を積極的に聞き、いじめの早期発見に努めている。	相談をしたとき、先生は話を聞いてくれる。	9−1 教師は、お子さんの努力を認めたり、励ましたりして温かく接している。 9−2 教師は、家庭からの相談に適切に対応している。
健康で明るくしっかり働く子ども	健やかな体の育成	基本的な生活習慣を身につけ、集団生活における規範意識を育む。 体力・気力の増進と健康安全指導の徹底を図る。	10	生涯を通しての健康保持のための教育	個々の能力に応じて自信を持たせるような、楽しく達成感のある授業を行う。	個に応じた目標を設定し、達成のための手立てを仕組んだか。	児童の体力向上において、個に応じた目標を設定し、達成感を持たせられる手立てを仕組んでいる。	運動をするのは楽しい。	お子さんは、進んで体を動かし、健康づくりに努めている。
			11		健康に対する意識や知識を高めるために、養護教諭や栄養教諭と連携して健康教育を進める。	給食指導・学級指導の時間を有効に活用し、養護教諭や栄養教諭と連携し授業を行ったか。	食育・健康教育を計画的に行っている。	健康に気をつけて生活をしている。	学校は、体力の向上や健康・安全教育を適切に行っている。
			12	安心安全な学校	防災・防犯訓練を計画的に実施すると共に、非常時に適切な対応ができるような指導を日常的に行う。	防災・防犯意識を高めるために、学級指導や帰りの会などでの呼びかけをおこなったか。	防災・防犯訓練を生かして、危機管理指導を行っている。	地震や火事、怖い人への対応がわかる。	学校は子ども達の安全に配慮している。
信頼される学校		地域社会・家庭との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。	13	開かれた学校	様々な便りやホームページの更新を通じて、学校の教育活動の周知を図る。	様々な便りやホームページの更新、ICTを活用して学校の教育活動を周知する。	様々な便りやホームページの更新を通じて、学校の教育活動を知ってもらうための努力をしている。		様々な便りやホームページの更新、参観等を通じて、学校の様子がよくわかる。
			14	家庭・地域との連携	保護者や地域人材を生かした教育の推進を行う。【CAN・千代田荘交流・ほうとう味噌造り・親子読書・校外学習講師等】	保護者や地域の人材を活用し、特色ある教育活動の実現を図ることができたか。	学校として、保護者や地域人材を活用した教育活動の実現を図ったり、教育課程を見直したりすることができている。	家の人や地域の人が学校に来て、教えてもらえる授業は楽しい。	学校は、保護者や地域人材を活用した教育活動を適切に行っている。

令和５年１２月７日

保護者　様

甲府市立千代田小学校
校長　篠原　利明

学校評価の依頼について

師走に入り、校庭の木々の葉もすっかり落ち、冬支度を始めているようです。保護者の皆様には、日頃より本校の教育推進に深いご協力と温かいご支援をいただき感謝申し上げます。

さて、本校は「地域とともにある学校」を目指し、地域や保護者の皆様と教育目標の共有を図るため、本年度も学校評価を実施し、学校運営の評価・改善を行いたいと考えております。

つきましては、保護者の皆様のご意見をいただきたいと思いますので、お忙しい折とは存じますが、下記ＱＲコードより**１２月１５日（金）まで**にご回答ください。長子だけなく、児童数分のアンケートをお願いするため、学年ごとにアンケートを作成していますので、ご承知おきください。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

《学校教育目標》　『心豊かでたくましく、自ら学び、自ら考え、実践する子どもの育成』
《めざす子供像》
○　思いやりのある子ども
○　よく考え、進んで学習する子ども
○　健康で明るくしっかり働く子ども
《学校経営の方針》
・学習指導の充実【わかりやすい・安心して参加・活躍できる】
・心の教育の充実【思い遣る心の育成・人間関係を築く力の育成・多様性を認め合える】
・健やかな体の育成【運動へのチャレンジ・細やかな保健指導・自ら命を守る】
・家庭や地域との連携【知っていただく・協力していただく・児童の学びを広げる】

学校評価回答フォーム

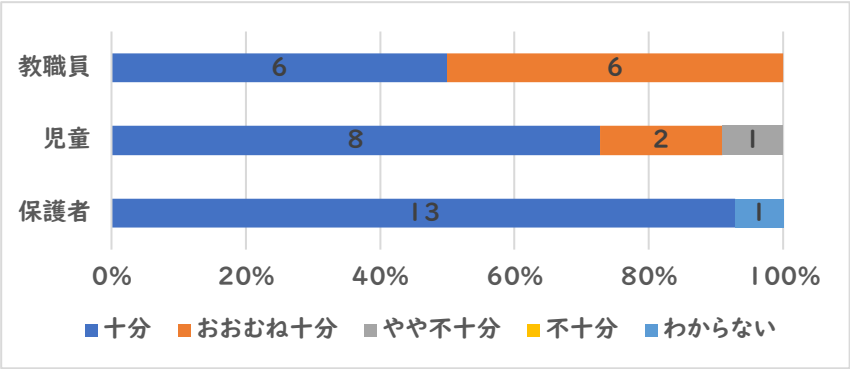
【１，２，３年保護者用】　　【５，６年保護者用】

問い合わせ先
教　　頭　早川　優子
電　　話　２５１－８０５９

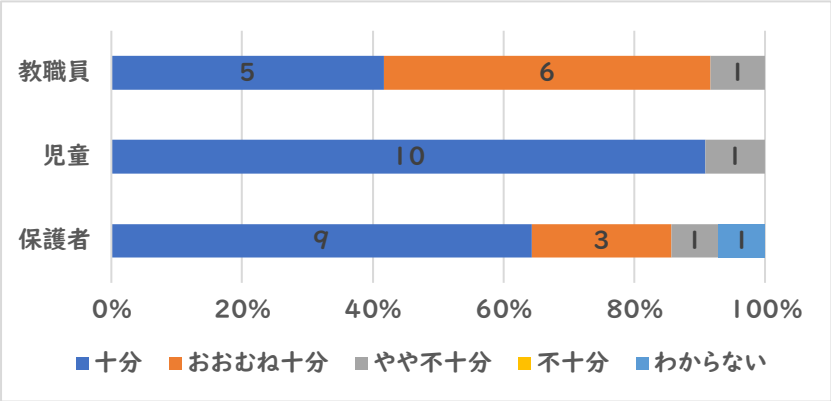
2　評価結果からの考察と改善案

（1）学習指導の充実

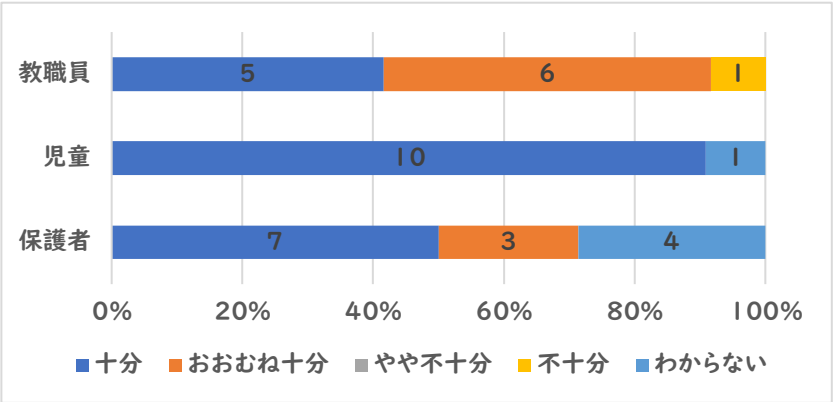
①ユニバーサルデザインの視点をふまえたわかる授業	教職員	甲府スタイルの実践を通し、わかる授業・楽しい授業を行っている。
	児童	授業は楽しくわかりやすい。
	保護者	教師は、楽しくわかりやすい授業を行っている。



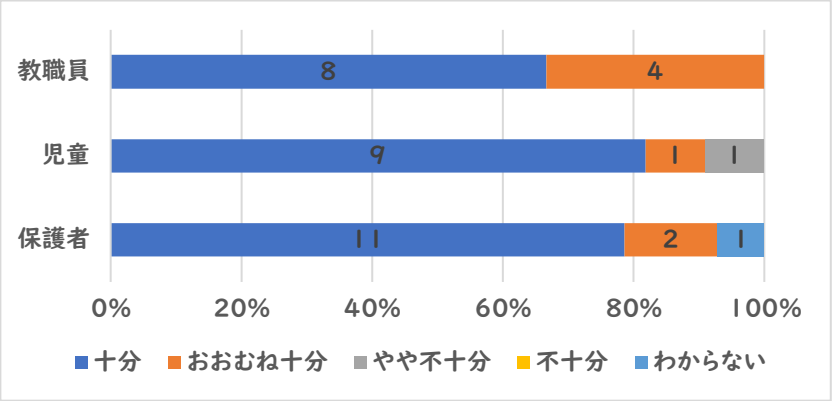
②言語活動の充実（主体的・対話的で深い学び）	教職員	話し合ったり、考えを書いたりする活動を取り入れた指導を行っている。
	児童	話したり、書いたりする活動に進んで取り組んでいる。
	保護者	学校の指導を通して、話したり書いたりする力がついてきている。



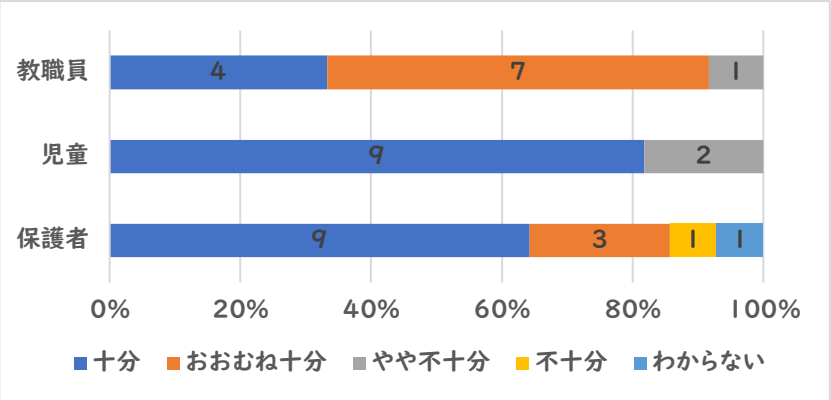
③ICT機器の効果的な活用	教職員	ICTを活用し、子供の学びを広げる工夫をしている。
	児童	クロームブックを使った学習は、楽しくわかりやすい。
	保護者	クロームブックを使った指導が、お子さんの主体的な学びにつながっている。



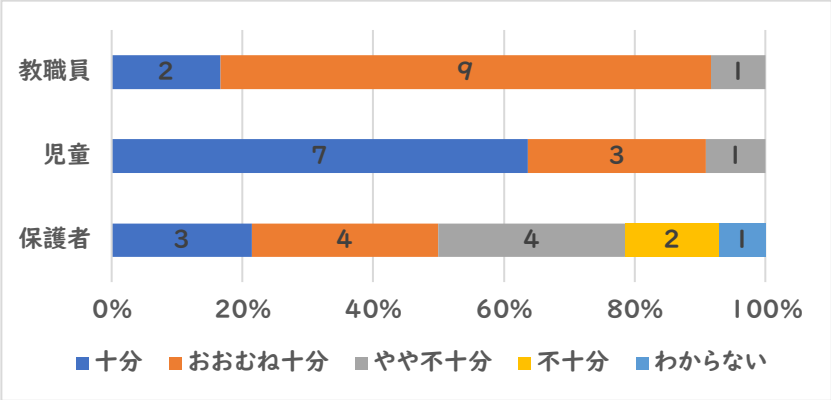
④個に応じた指導	教職員	授業中や授業以外の時間に個別指導をしている。
	児童	勉強がわからないときには、先生がわかるまで丁寧に教えてくれる。
	保護者	学校の個に応じた指導によって、理解が深まっている。



⑤読書活動の推進	教職員	子供たちが読書に親しめるような工夫をしている。
	児童	いろいろな本を自分から進んで読んでいる。
	保護者	お子さんは、読書を楽しみ親しんでいる。



⑥計画的な家庭学習	教職員	家庭学習を児童自身でやり遂げることができるように、内容や方法を考えている。
	児童	家庭学習はきとんとやっている。
	保護者	お子さんは、家庭学習の習慣を身に付けている。



学習指導の充実についての考察と改善案

成果の見られた評価項目①③④

【①ユニバーサルデザインの視点をふまえたわかる授業】

教師は、子供たちにとって楽しく、わかりやすい授業づくりのために、「甲府スタイル」(*)の指導過程を取り入れながら、校内の研究にも取り組み、指導の充実を図ってきました。具体的には、授業のめあてを明確にし、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりしながら、学習を深めていきました。児童に分かりやすい板書にも心がけました。「授業は楽しくわかりやすい」と多くの児童が感じ、保護者からも良好であるという評価を得ることができ、成果を感じます。

（＊）甲府スタイルとは、主体的・対話的で深い学びに向けて、甲府市教育委員会が授業における指導過程の重点を示したモデルのこと。

【③ICT機器の効果的な活用】

本校では、ICT（タブレット端末）を日常的に授業で活用していくために、講師を招聘したり教職員同士で活用方法を共有したりしながら、教師のスキルアップを目指しました。児童も ICT（タブレット端末）を学習する道具として、朝の学習や授業での意見交流、発表のための資料づくり等に進んで活用していました。わからないことがあると自分で調べたり、動画を撮影して自分の学びを振り返ったりする児童もいました。保護者からも「ICT（タブレット端末）を使った指導が、子供の主体的な学びにつながっている」と評価をいただきました。一方で、ICT（タブレット端末）を持ち帰った際の適正な使用のため、利用時間の制限や利用可能なアプリの限定など、一定の利用制約があると助かるという、ご意見もいただきました。学習を深めるための道具として活用できるように、引き続き指導をしていくとともに、教師のスキルアップも図っていきます。

→改善案

・年度の始めに、ICT（タブレット端末）の使い方やきまりについて全校で確認する機会を設けていきます。
・授業の中でさらに効率的、効果的にICT（タブレット端末）が活用できるように、年間の指導計画への位置付けを明確にします。
・各学年で目指すICT活用能力を明確にし、ICTを使った授業づくりや教育実践例について、教師同士で情報交換の場を大事にしていきます。

【④個に応じた指導】

授業がよりよくなるための基盤は「学級経営」です。おだやかで明るく開かれた学級では、子供たちも発言がしやすかったり、間違っても認められたりします。「勉強がわからないときには、先生がわかるまで丁寧に教えてくれる」と回答した児童が多くいました。「授業中や授業以外の時間に個別指導をしている」と回答した教職員が多いことからも、「個が生きる一人一人が主役の千代田小学校」を目指し、児童に合ったきめ細かな指導を積み重ねることで、児童が安心して学ぶことができていると感じます。

今後も、教師が児童の学習意欲を高める工夫をし、子供たち一人一人への関わりを大事にしながら、授業づくりに取り組んでいきたいと思います。そのためにも、子供と向き合う時間を十分に確保すること、授業の質の向上を目指し、十分に教材研究を行う時間を確保することが必要です。今年度、本校では、教科分担制、教科外指導当番制、ICT 活用等を取り入れながら、業務改善を図ってきました。児童にとって最適な学びの場を保障するために、全教職員で連携しながら、日々の教育活動を見直し、引き続き業務改善に取り組んでいきます。

課題の見られた評価項目②⑤⑥

【②言語活動の充実（主体的・対話的で深い学び）】

主体的・対話的で深い学びの実現に向け、話し合ったり書いたりする言語活動を充実させることについては、教職員・児童・保護者とも一部課題が見られました。授業では、話し合ったり、発表したり、友達との学び合いを通して自分の考えを深めたり、広げたりすることを重点に取り組んでいますが、コミュニケーションを図る相手や場が限られてしまったり、自分の考えを発表することに自信が持てなかったりする状況もあります。また、相手意識を持ち、自分の考えを整理して伝えたり、書いたりすることに苦手意識のある児童もいます。異学年と関わる機会が持ちやすい本校の強みを生かし、授業だけでなく、代表委員会や全校道徳の時間など、様々な相手とコミュニケーションを図る機会も設定してきました。また、本校の特色である「オータムフェスタ」では各児童が「１分間スピーチ」に取り組み、自分の思いや考えを豊かに表現する機会も設定しています。こうした経験を継続して積み重ね、普段の学校生活においても意識して指導することで、児童が話したり書いたりする力の育成を図ります。

→改善案

・「１分間スピーチ」の取り組みを限定的にせず、普段の学校生活にもつなげていくため、日頃から相手や目的を大事にした話し方の指導を積み重ねます。
・日々の授業において、「なぜなら」「つまり」などの言葉を使い、自分の考えを順序立てて分かりやすく伝える力の育成を目指します。
・国語の学習と関連付けながら、学校行事に向けての話し合いの場も大切にします。
・児童が自分の考えを持ち、主体的に学習に取り組めるような課題設定、教師の発問を工夫した授業づくりに努めます。
・異学年と関わる機会を増やし、様々な考えに触れる機会を設けます。（代表委員会、児童総会、全校道徳など）

【⑤読書活動の推進】

読書活動の推進については、教職員・児童・保護者とも達成できているという評価が過半数以上でした。一方で、「いろいろな本を自分から進んで読んでいる」（児童）、「お子さんは、読書を楽しみ親しんでいる」（保護者）ことに、「やや不十分」「不十分」との回答もありました。多くの児童が図書室の本を借り入れ、本と向き合っている現状がありますが、児童が発達段階に応じて様々な本に親しむことに課題を感じている教職員もいます。

こうした課題を解決するために、今年度から朝の活動に週2回読書の時間を設定し、年間を通して確実に本と向き合う時間を確保しました。また、昨年度に引き続きCAN（保護者）による読み聞かせのご協力もしていただきました。児童が読書に興味を持ち、様々なジャンルの本に親しめるように、図書室の環境整備も含めて、来年度も今年度の取り組みを継続させながら、本校の読書取活動を推進していきます。

→改善案

・CANの読み聞かせの場は、児童が様々な本に触れる大変良い機会となっています。保護者だけでなく、学校内でも読み聞かせの場を設けたり、親子読書を推進したりすることにより、児童が本に親しむ時間を大切にします。（異学年によるペア読書、教職員による読み聞かせ等）
・なでしこ号の活用推進を図るために、図書だよりだけでなく、学年だより、安心メールでも来校日を周知します。
・甲府市立図書館のデジタル図書の活用を進めたり、司書教諭と連携して本の貸し出し時におけるルール作りや意欲を高めるスタンプラリーを導入したりし、児童の本への興味を広げる工夫をしていきます。

【⑥計画的な家庭学習】

「家庭学習を児童自身でやり遂げることができるように、内容や方法を考えている」（教職員）、「家庭学習はきちんとやっている」（児童）、「お子さんは、家庭学習の習慣を身に付けている」（保護者）について、「やや不十分」「不十分」との評価がありました。全国学力学習状況調査の質問紙においても、本校児童の家庭学習の時間が全国平均や県平均に比べて、短い傾向が見られました。家庭学習が子供たちの主体的に行う学び（自主学習）となるように、今年度１学期末から、学校からの宿題を減じ、子供たちの自主学習に切り替える期間を設けました。金曜日は完全ノー宿題デーとし、週末は子供たちがやりたいことに取り組む時間を確保しました。また、自主学習の仕方について学校で指導をしたり、ICT（タブレット端末）を家庭に持ち帰り、ｅ ライブラリ(*)の有効活用などを図ったりしました。保護者のアンケートからも、家庭学習の習慣を身に付けるために、励ましてくださっている様子が伝わってきました。

一方で、家庭学習への取り組みに個人差も見られます。子供たちは、教師や保護者等の他者が計画したプランに従って学ぶことはできています。しかし、自分で計画を立てて、学習を進めることは苦手としている子供が多い傾向にあります。学校の授業でも、家庭学習でも、学習方法を自ら選び、失敗を繰り返したり、友達や家族、教師からの助言を生かしたりしながら学習を進めていくことが「子供たち自身が自らに合った学び」を身に付け、自律的な学習者へ育てていくことにつながります。今後も、保護者の皆様と連携しながら、子供が自分に合った学びを選択し、家庭学習を通して、学ぶことの楽しさ、できることの楽しさを感じることができるように取り組んでいきます。

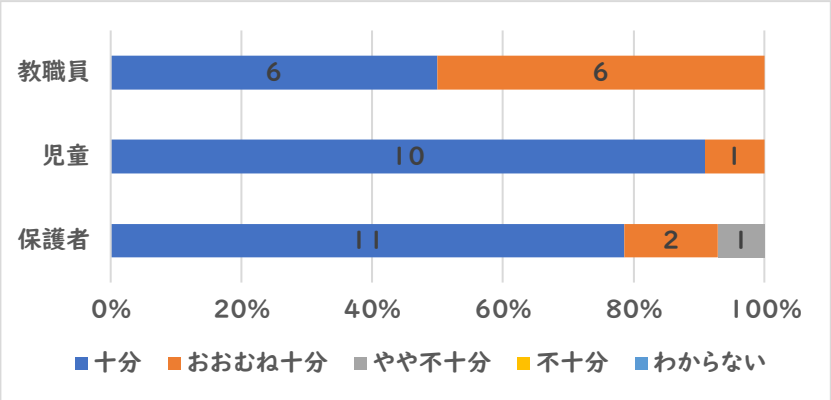
（*）ICT（タブレット端末）に入っている各教科の基礎学力の定着を目指したアプリのこと。

→改善案

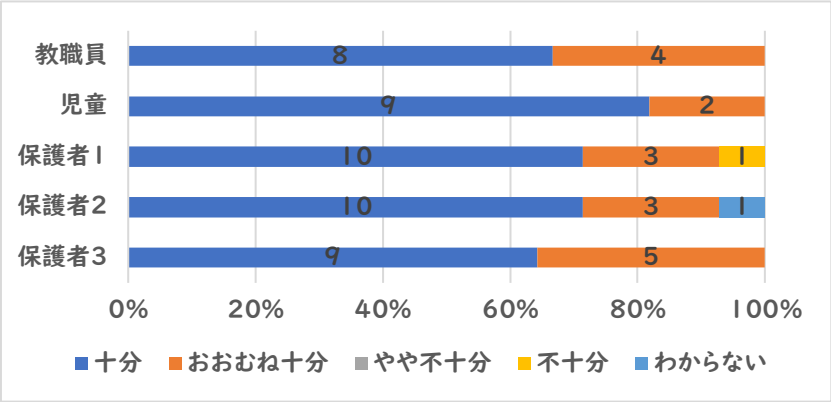
・年度初めに、家庭学習の方法や内容について学校で統一したものを具体的に示し、児童や保護者の皆様と共有する時間を設け、家庭でも支援していただけるような体制づくりを進めます。
・学校でも家庭でも、児童が進んで取り組んだことは必ず認め、ほめてはげましていきます。
・「自主学習プラン」を作成し、自分で考え、実行していけるような指導を行っていきます。
・家庭学習につなげることができる ICT（タブレット端末）の活用方法について、教職員で検討していきます。

（２）心の教育の充実

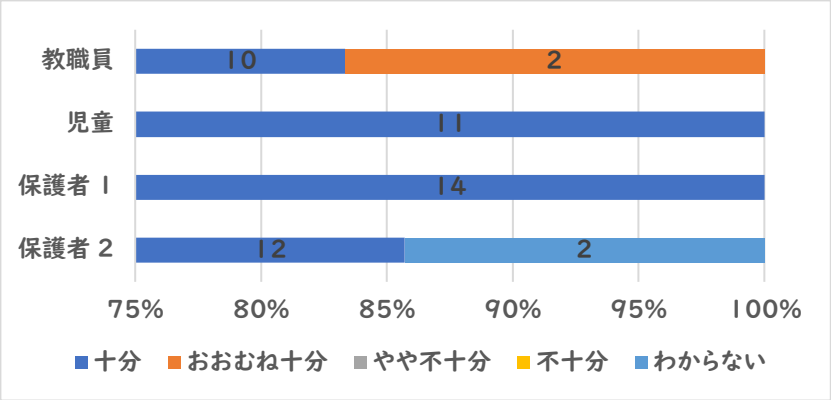
⑦道徳教育の充実	教職員	思いやりの心や命を大切にする心を育てる指導をしている。
	児童	友達のことを大切にしている。
	保護者	お子さんに、思いやりの心や命を大切にする心が育っている。



⑧集団づくり 個性の尊重	教職員	児童の自己肯定感を高める取組の工夫に努めている。
	児童	先生は、頑張るとほめてくれたりはげましてくれたりする。
	保護者	1 学校は、子供たちの教育的ニーズに適切に応えようとしている。
		2 学校は、基本的生活習慣や集団生活における規範意識を育てている
		3 お子さんは、仲間を大切にして良好な関係を築いている。



⑨児童理解	教職員	子供の悩みや相談を積極的に聞き、いじめの早期発見に努めている。
	児童	相談したとき、先生は話を聞いてくれる。
	保護者	1 教師は、お子さんの努力を認めたり、励ましたりして温かく接している。
		2 教師は、家庭からの相談に適切に対応している。



心の教育の充実についての考察と改善案

成果の見られた評価項目⑦⑧⑨

課題の見られた評価項目⑦

【⑦道徳教育の充実】

「思いやりの心や命を大切にする心を育てる指導を大切にしている」（教職員）、「友達のことを大切にしている」（児童）については、全ての教職員及び児童が「十分」「おおむね十分」を評価しました。一方で、「お子さんに、思いやりの心や命を大切にする心が育っている」（保護者）については、「やや不十分」との評価もありました。

授業や休み時間、給食の時間や清掃活動等における児童の様子を見ていると、仲間へのあたたかい声かけや手助けなど、思いやりにあふれた姿が見られます。児童会で「ありがとうの花」（友達に感謝を伝えるカード）に取り組んだり、休み時間に異学年と交流したりする経験が、児童の心の育成につながっていると思います。また、１学期には、「いじめのない学校に向けて」をテーマに、「いじめ０」の千代田小学校を続けていくために、どんなことに取り組んでいけるかを全校で話し合いました。

友達との関わりの中で、思い通りにならないことが起きたり、誤解が生じたりすることはあります。「自分の言葉で気持ちを相手に伝える」ことを大切に、児童同士の良好な人間関係の構築や命の大切さを学ぶ機会を、学校教育全体の中で、継続的に指導を行っていきます。

→改善案

・相手の気持ちになって考えたり、行動したりすることの大切さを学校生活や日々の授業において指導をしていきます。また、友達の関わりの中でトラブルがあった際には、お互いの話をよく聞き、きめ細かな対応に心がけます。
・学校内で気になることがあった際には、教職員間で情報を共有し、全職員で連携して対応できるように努めます。
・本校ならではの異学年との交流の場を大切にし、児童会活動や全校道徳の実施、地域の方々との交流の場の設定など、様々な人と交流する場を継続的に設定し、思いやりの心を育みます。
・スクールカウンセラーの活用の充実を図り、子供たち一人一人をより理解するための指導・支援に努めていきます。

【⑧集団づくり、個性の尊重】

「児童の自己肯定感を高める取組の工夫に努めている」（児童）、「先生は頑張るとほめてくれたり、はげましてくれたりする」（児童）、「学校は、基本的生活習慣や集団生活における規範意識を育てている」「お子さんは、仲間を大切にして良好な関係を築いている」（保護者）については、全て肯定的な評価をいただきました。「個が生きる、一人一人が主役の千代田小学校」を目指し、一人一人の個性を大事にしながら、「やればできる」という自己肯定感を高めていけるように、授業や様々な学校行事において指導を積み重ねてきました。また、小規模校においても、集団としてお互いが気持ちよく生活するために必要な規範意識の育成にも、常に教職員で共通理解を図りながら取り組んできました。保護者からも、「いつも児童一人ひとりの個性に対し、個々に応じた対応をしてくださりありがとうございます。」といった感謝の言葉をいただきました。

これまでも、学級担任は個が主役となる場面設定をし、その良さを認め、誰もが大切な存在として学級の中で生きる指導をしてきました。子供たちが自らに自信を持って、学校生活を送れるように、教師と児童との信頼関係の構築を重点に、一人一人の児童が抱える様々な困難や悩み、ストレス等を把握しながら、一人一人の良さを生かし、可能性を広げていくことのできる指導に努めます。

【⑨児童理解】

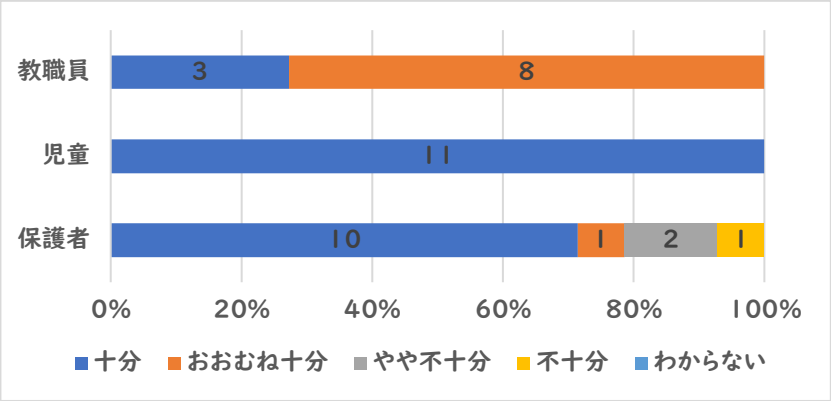
児童理解については、教職員・児童・保護者とも全て「十分」「おおむね十分」との評価をいただきました。学校では、担任教師だけではなく、全教職員が児童一人一人を大切にし、一緒に遊んだり、話しかけたりしています。

また、スクールバスや保護者の送迎の際に、保護者の方々とコミュニケーションを図る機会が持てることも、児童の様子を知り、いち早く対応することにつながっています。今度も、子供のちょっとした気遣いや頑張りを連絡帳に書いたり、電話連絡をしたりして、家庭との連携を図っていきます。

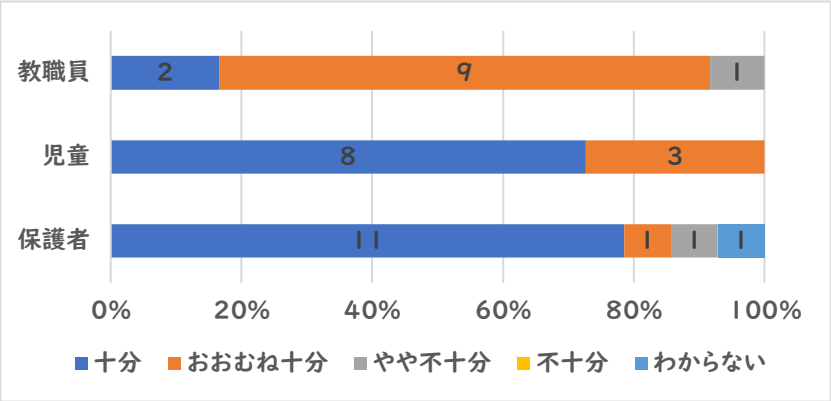
児童が安心して学校に通うことができるように、今後も児童との会話を大事にし、保護者の皆様と常に連携しながら、教職員が一丸となって温かく、明るい活気ある学校づくりに努めます。

（３）健やかな体の育成

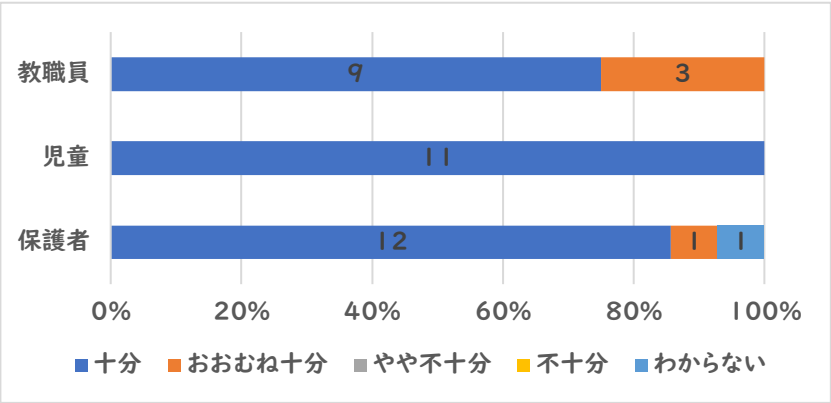
⑩生涯を通しての健康保持のための教育	教職員	児童の体力向上において、個に応じた目標を設定し、達成感を持たせられる手立てを仕組んでいる。
	児童	運動をするのは楽しい。
	保護者	お子さんは、進んで体を動かし、健康づくりに努めている。



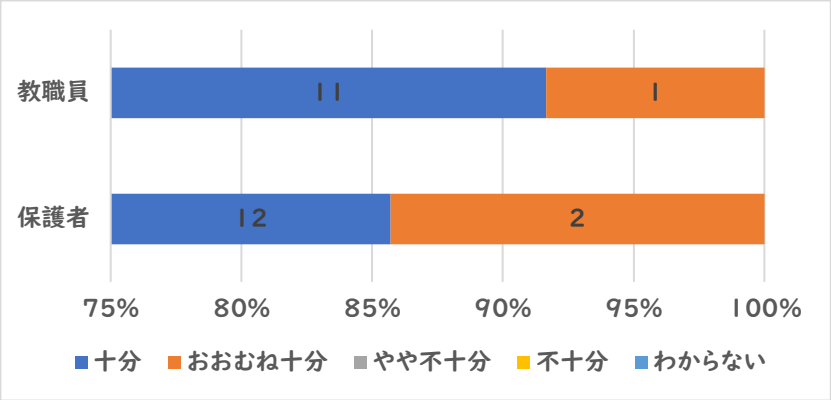
⑪生涯を通しての健康保持のための教育	教職員	食育・健康教育を計画的に行っている。
	児童	健康に気をつけて生活している。
	保護者	学校は、体力の向上や健康・安全教育を適切に行っている。



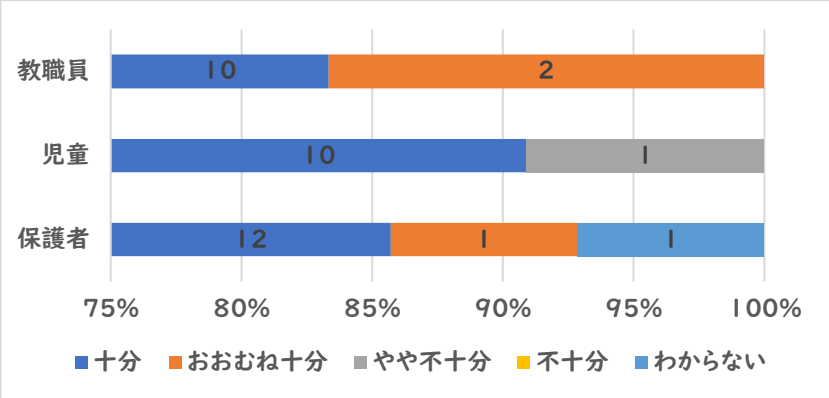
⑫安心安全な学校	教職員	防犯・防災訓練を生かして、危機管理指導を行っている。
	児童	地震や火事、怖い人への対応がわかる。
	保護者	学校は子供達の安全に配慮している。



⑬開かれた学校	教職員	様々な便りやホームページの更新を通じて、学校の教育活動を知ってもらうための努力をしている。
	保護者	様々な便りやホームページの更新、参観等を通じて、学校の様子がよくわかる。



⑭家庭・地域との連携	教職員	学校として、保護者や地域人材を活用した教育活動の実現を図ったり、教育課程を見直したりすることができている。
	児童	家の人や地域の人が学校に来て、教えてもらえる授業は楽しい。
	保護者	学校は、保護者や地域人材を活用した教育活動を適切に行っている。



健やかな体の育成についての考察と改善案

成果の見られた評価項目⑩⑫⑬⑭

課題の見られた評価項目⑪

【⑩⑪生涯を通しての健康保持のための教育】

「運動をするのは楽しい」（児童）について、全ての児童が「十分」と評価しました。昨年度は、同じ評価項目について「やや十分」「やや不十分」と評価した児童が約3割いたため、今年度、大きく改善が見られました。その要因として、教師が日常的に運動の苦手な子供に対して場の設定やルール等を工夫し、十分な運動量を確保しながら、体育の授業を進めていることが挙げられます。この体育の授業で得た技能を、運動会などの学校行事にもつなげる工夫を行うことで、「自分にもできる」という自信にもつながりました。

また、休み時間に体を動かすことが大好きな児童の実態を踏まえ、週に1回、昼休みを給食終了から5校時開始前までの40分間に設定した「ロング昼休み」を導入したことも挙げられます。このロング昼休みの導入により、運動を十分にできる時間を確保することができ、前半は室内で過ごし、後半は運動に取り組むなど、児童が主体的に自分の過ごし方を考えることができました。このように、主体的に活動させる時間を確保することは、本項目がめざす「生涯を通しての健康保持」ができる児童の育成につながります。「お子さんは、進んで体を動かし、健康づくりに努めている」（保護者）について、「やや不十分」「不十分」と評価された保護者の方もいました。今年度の成果を踏まえ、来年度も、児童の実態に応じて、教育課程の見直しを図ります。

なお、評価項目⑪「食育・健康教育」については、計画的に実施することについて教職員から一部「やや不十分」との評価がありました。また、「学校は、体力の向上や健康・安全教育を適切に行っている」（保護者）について「やや不十分」との評価がありました。自分の健康管理や自分で行っていくこと、規則正しい食生活を送ることの大切さについて、養護教諭、栄養教諭を中心に、学校医の指導を仰ぎながら、家庭と連携して取り組みます。

→改善案

・「できるための方法がわかる→意識する→できるようになる」にかかる時間は一人一人違います。生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付けさせるために、子供たちが「体育の授業は楽しい」と感じるような授業実践を今後も行っていきます。また、さらなる楽しい体育授業を目指して、授業のあり方（技能向上、安全のためのポイント等）について常に考え、教師の力量を高めていくために、組織として取り組んでいきます。

・休み時間に体を動かすことが好きな児童が多いので、色々な遊びや体づくり運動を紹介しながら、休み時間をより充実させることができるようにしていきます。

・朝活動の時間の活用など、児童の体力の向上を目指して、負担になり過ぎず、児童が運動に親しめる時間を確保していきます。

・元気に学校生活が送れるように、定期的に養護教諭による保健指導を行う機会を設けていきます。

【⑫安心安全な学校】

本年度の避難訓練は、火災１回・地震３回（引き渡し訓練も含む）・不審者対応１回・避難所設営訓練１回・スクールバスの非常回避訓練１回、合計7回実施しました。毎回の訓練で、自分の命は自分で守ることの大切さ、自分で考え、判断し、行動することの大切さを伝えてきました。これらの取組は、児童の災害に対する恐怖や命を守る行動について、真剣に考える良い機会となりました。また、市役所防災課より講師を招聘して、避難所体験を行ったことも、災害時への心構えを高める有意義な学習となりました。昨年度の学校評価を生かし、スクールバスの非常回避訓練も実施しました。児童一人一人が体験する時間を設け、車中に置き去りになったときの行動について学ぶ機会となりました。

夏季休業中には、市役所の担当者とともにスクールバスに乗車し、通学路の安全点検を行う中で、校門前の通学路と横断歩道の舗装を強調していただいたり、道路脇の枝の伐採も行っていただいたりしました。

非常変災の心配も年々多くなってきています。今後も、安心安全な学校であるために、日々の安全点検を行うとともに、危機管理に対する児童への指導を継続的に行い、災害時に主体的に考え、行動していく力を身に付けさせていきます。また、非常変災時、大地震発生時の地域・家庭との連携方法についても、毎年確認をしていく必要があると思います。

【⑬開かれた学校】

「様々な便りやホームページの更新、参観等と通じて、学校の様子がよくわかる」（保護者）については「十分」という評価を多くいただきました。今年度は、年度初めに保護者の方の協力していただき、ホームページをリニューアルしました。「千代田小ブログ」は、ほぼ毎日更新し、少しでも多く保護者や地域の方々に学校の様子が伝わるように尽力しました。「毎日、ブロクを楽しみにしています」というご意見もたくさんいただきました。学校便り、学年便り、HPの更新などを通じて、学校の教育活動が周知できたと思います。

今年度は、コロナ禍の3年間を終え、これまでの教育活動を見直す年となりました。学校教育活動として、児童にどんな力をつけさせたいかを重点に、学校行事等の見直しを図りました。一人一人の児童に寄り添いながら、児童に負担がないように、児童にとって教職員にとっても持続可能な学校行事の実施を目指しました。地区との合同運動会、文化祭、150 周年記念事業など、地域の方に協力していただき、共同して実施することで、教育活動も充実しました。今後も、積極的に学校の教育活動を周知していきながら、保護者の皆様や地域の方々と協力していきます。

【⑭家庭・地域との連携】

「家の人や地域の人が学校に来て、教えてもらえる授業は楽しい」（児童）と感じている児童が多くいます。今年度、本校では学校運営協議会と連携しながら、地域人材を活用した教育課程づくり、学校行事等の推進に努めてきました。保護者の方のアンケートに「学習面以外においても、社会的スキルを身につけるための、様々な工夫や配慮をして頂けています。また、地域人材を生かした授業なども積極的に取り入れてくださっていることで、学校生活に彩りが生まれているように感じます。子どもが成長する過程で、様々な人々との出会いの場を作って頂けていることは、素晴らしいことだと思います。是非これからも、出前授業などの機会を作っていって頂きたいと思います。」とあるように、日々の授業においても、地域の方に協力していただいたおかげで、児童の学びが深まりました。今後も、児童の豊かな学びの実現に向け、学校運営協議会と連携しながら、千代田小学校の特色を生かした地域人材を活用した教育課程づくり、学校行事等の推進に努めます。

3　自由記述

教職員

・今年度は、学校の教育活動に対して保護者や地域の方からたくさんご協力をいただき、ありがたく思いました。特に、地域学習では、くわしく地区の様子を教えていただき、児童の学習が充実しました。また、他の教育活動についても、内容の見直しができたものが多かったと感じます。これまでの千代田小の良さも大切にしつつ、今の千代田小としてできることを考え、実りある教育活動を実践していきたいです。

・千代田小の強みを生かした教育活動を今後も継続していくために、現状を見ながら常に子供たちのよりよい成長のためになっているのかを最優先に考えて改善を図っていくべきだと思う。続いて、保護者の立場に立って考えたり、教職員の負担軽減の視点から改善を図っていたりすることが大切だと思う。文部科学大臣の「子供たちのための学校における働き方改革をできるところから一緒に」また、教育長の「できることを直ちに」というメッセージを受けて、早急に取り組んでいく必要がある。子供たちにとっても教職員にとってもウェルビーイングが実現できるように保護者の方にも理解を得ながら進めていきたい。

・これまでの学校行事の在り方を見直し、学校にとっても地域にとっても無理なく、有意義な活動が行えるように、積極的な見直しを図ることのできた１年だった。今後も引き続き、全職員で共通理解を図りながら、教育課程を見直していくことが必要だと思う。学校のホームページは、地域や保護者に共通理解を図る上で、大変効果的だった。

保護者

・学習面以外においても、社会的スキルを身につけるための、様々な工夫や配慮をして頂けています。また、地域人材を生かした授業なども積極的に取り入れてくださっていることで、学校生活に彩りが生まれているように感じます。子どもが成長する過程で、様々な人々との出会いの場を作って頂けていることは、素晴らしいことだと思います。是非これからも、出前授業などの機会を作っていって頂きたいと思います。

・家庭学習は一学期から、家庭でも習慣化を目指して取り組んできました。疲れてしまったり、遊びたい日もあったりしますが、１　年生としてはよくやっていると思います。学校でも、習慣になるよう励まして頂いていて、本人の励みになります。これからも、家庭も協力して取り組みます。

・子どもたちの様子を見聞きする中で、先生方が千代田小の児童のためにとても努力してくださる様子が伝わり、感謝しております。いつも児童一人ひとりの個性に対し、個々に応じた対応をしてくださりありがとうございます。「千代田小が好き」と思う児童がたくさんいるのは、先生方のおかげだと感じています。

・学校入学に興味を持ってくださる方が増えて、嬉しく思います。

・持ち帰り時の適正な使用のため、利用時間の制限や利用可能なアプリの限定など、一定の利用制約があると助かります。

4　学校関係者評価委員会（学校運営協議会）における話し合いから

（1）令和５年度 学校関係者評価委員会について

①期日　　令和6年2月15日（木）14:30～17:00 千代田小学校プレイルーム

②参加者

学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）

末木　良一 様（学識経験者、学校運営協議会委員長）

山本　勅夫 様（上帯那地区自治会長）

田野口喜雄 様（下帯那地区自治会長）

末木　鋼治 様（平瀬地区自治会長）

久保寺　力 様（上野地区自治会長）

田口　夏季 様（PTA 会長）

ｳｨﾙｷﾝｿﾝ明子 様（PTA 副会長）

学校側から

篠原 利明（学校長）　早川 優子（教頭）　深沢 俊哉（教務主任）

③内容

・学校長挨拶

・本年度の学校評価の実施についての説明（教頭）

・質問紙調査の結果をもとにした自己評価と改善策についての説明（教頭）

・各項目についての質疑応答・協議

（2）協議内容（学校運営協議委員からいただいた意見）

①学習指導の充実について

【言語活動の充実（主体的・対話的で深い学び）】

・「1分間スピーチ」は、千代田小学校の特色であり、大変すばらしい取り組みである。改善策にもあるように、その期間だけ取り組むのではなく、1学期から継続的に、普段の授業においても自分の考えを話す経験を積み重ねることが大事だと思う。

・「1分間スピーチ」において、自分のスピーチをするだけでなく、友達のスピーチに対してその場で質問したり答えたりすることも良い経験になっている。

・「1分間スピーチ」以外にも、児童が自分の思いや考えを発表する場はありますか。

→始業式、終業式における児童の発表、平和集会、児童総会などを学校では設定している。

→日々の学校生活において身に付けた力を1分間スピーチで試していけるとよい。

・「1分間スピーチ」を実施することで、家庭において児童に変化は見られるか。

→中学生になったときに、千代田小学校での経験が生かされ、臆することなく自分の意見を発表できている。千代田小学校は、一人一人の発表の機会が多いので、「自分の意見を言いたい」という子供の意欲付けにつながっていると思う。

→「1分間スピーチ」でスピーチの内容を考えたり、人前で堂々と発表したりする経験は、子供にとって非常に大事だと感じている。コロナ禍で活動が限定されていたが、徐々に今までの活動ができるようになってきているので、日頃から自分の考えを話したり、書いたりする場を意識的に作っていくことも大事である。

・授業を参観し、自分の意見を言うときにきちんと立ったり、椅子を入れたりする学習規律が身に付いていて素晴らしいと感じた。

【読書活動の充実】【計画的な家庭学習】

・以前は、CANの読み聞かせで地域の方の登録もあったので、もし機会があれば地域の方にも協力していただけると、子供がさらに読書に興味を持つきっかけになると思う。

・学校で様々なジャンルからおすすめの本を紹介していただき、親子で読書に取り組む機会を持てるとよいと思う。

・家庭学習を進めるためには、まず、低学年は基礎・基本の定着を目指した内容にし、高学年になるにつれて自主的に取り組む姿勢につなげていけるとよいのではないか。

・「何をどのように学ぶか」を自主的に考えられる児童を育てていくために、「自主学習プラン」を作成し、週のはじめに子供たち自身が何を何分間取り組むかプランニングし、保護者に確認していただくこともよいのではないか。

・学校から、学年に応じた家庭学習の目安の時間や内容、取り組み方などを年度初めに児童や保護者に説明してもらえるとありがたい。

②心の教育の充実ついて

【道徳教育の充実】【集団づくり・個性の尊重】

・みそづくり、地域学習、昔の遊び集会など、コロナ禍で実施できなかった地域と連携した行事や授業によって様々な方と触れ合い、子供たちも楽しそうに活動していた。多くの人の考えや意見に触れる機会が少ないという小規模校の難しさもあるが、他校とのオンライン交流や、地域の方々と触れ合う機会の確保等、様々な人の考えや意見に触れることで視野が広まっていくと思う。

・中学校への接続を意識し、環境が変わっても乗り越える力を身に付けていくことが大事である。他者の関わりは人間性を鍛える良い機会である。児童の発達段階に応じて、多様な他者と関わる機会を確保していき、試練を乗りこえる力を身に付けていってほしい。

③健やかな体の育成

【生涯を通しての健康保持のための教育】

・千代田小学校の体力測定の結果はどのような状況か。

→全国平均に比べて低い傾向にある。「運動をするのが楽しい」と感じている児童が昨年度より増加しているので、今後も引き続き児童が意欲的に楽しんで運動に取り組める機会を確保していきたい。

・食育・健康教育は、生涯を通じて健康を増進していくために非常に重要である。特に、バランスのとれた食事、朝食など食育指導を今後も続けていってほしい。